

第Ⅲ部 令和2年7月豪雨

【令和3年度分】令和2年7月豪雨に関する北九州市の支援状況

(令和4年3月31日時点)

《人的な支援》

1. 職員の中長期派遣【危機管理室】 3名

(1) 福岡県大牟田市

福岡県市長会からの要請を受け、道路・河川等の復旧業務に従事する土木職員を派遣。(令和2年9月14日～継続中)

- ・ 道路、河川等公共土木施設の復旧業務（土木職）
令和3年4月1日～令和4年3月31日

(2) 熊本県人吉市

全国市長会からの要請を受け、都市公園災害復旧業務に従事する土木職員を派遣。(令和2年4月1日～継続中)

- ・ 道路、河川等公共土木施設の復旧業務（土木職）
令和3年4月1日～令和4年3月31日

令和2年7月豪雨被災地への中長期派遣職員報告

[派遣分野、活動期間、所属名（補職名）、氏名] (頁)

1 大牟田市（公共土木災害復旧業務） 37

活動期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日
補職名 危機管理室 危機管理課
氏名 野木 芳幸

2 大牟田市（公共土木災害復旧業務） 41

活動期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日
補職名 危機管理室 危機管理課
氏名 江上 誠治

3 熊本県人吉市（公共土木災害復旧業務） 44

活動期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日
補職名 危機管理室 危機管理課
氏名 石津 智二

大牟田市災害復旧派遣報告

派遣先 大牟田市 都市整備部 災害復旧対策室
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 野木 芳幸
活動期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

1 はじめに

令和2年7月の梅雨前線豪雨による災害により甚大な被害を受けた大牟田市からの支援要請を受け、9月14日から大牟田市への災害派遣が始まり、本市から延べ5人の職員が派遣されました。令和3年度からは自分を含め2名の職員が1年間派遣されることとなりました。派遣の話が浮上した時の第一印象は、大牟田市を含む筑後地区で浸水したことは報道されていましたが、大牟田市で道路や河川が被災したニュースやそもそも福岡県内でも大きな街というイメージがあり被災するような場所が本当にたくさんあるのかと思っていました。筑後地区の知人からの話もありましたが、単に近くに居住していた場所に20数年ぶりに行ってみたい思いがあり、従事することにしました。

2 被災状況

令和2年7月豪雨については昨年度派遣者から報告されているため割愛します。令和3年度にも2度（5月及び8月）大雨に見舞われ、国庫補助事業対象で道路3箇所、橋梁1箇所、河川5箇所、起債事業で道路6箇所、橋梁1箇所、河川等22箇所、ため池2箇所が被災しました。8月の大雨時はお盆で帰省しようと思いましたが、JR、西鉄とも終日運休となりそれもかなわず、宿舎で激しい雨のなかどれだけの被害が出るのかと不安であり眠れなかったことを記憶しています。

3 現地での活動経過

大牟田市では、先に派遣された方と同様、災害復旧対策室に配属されました。大牟田市職員13名、派遣職員（福岡県内）6名、コンサルタント3名、計22名の組織でした。大牟田市職員がとにかく若く、自分の子の世代であり、あらゆる面で年齢差を感じた1年でした。（本市も選考時にこの程度の情報提供は欲しいところです。）

派遣期間中の主な業務は、河川の災害査定後の復旧工事設計・積算及び工事監督でしたが、その後の豪雨で災害査定の準備なども加わりました。査定を受けるにあたっては、被災してから査定（11月）まで期間があるため、現場には雑草等が生え、被災箇所の起終点がわかりにくくなるなど現場に変化が生じていました。そこで査定前には、現地の草刈り、査定杭再設置を行い、被災箇所（机上査定なので写真）を査定官（立会官）にアピールできるか試行錯誤しながら現場作成を行いました。

た。

被災箇所の一部は大規模ですが、多くは状況写真のように小規模なものが数多く存在します。そのため、規模の割には手間がかかるという印象でした。



着工前



竣工



机上査定状況



朱入れ状況

4 日常生活

20数年ぶりに宿舎最寄り駅に降り立った大牟田市の街並みは、想像以上に大きなものでした。某百貨店がなくなっていることは知っていましたが、すごく栄えていた商店街がゴーストタウンのようになっており、驚き以外の反応ができませんでした。数少ない商店を物色すると物価が北九州と比べ非常に安く、有名なディスカウントストアでさえ、商品によっては県内の他店より価格を下げているなど、生活するにはとても良く、住みやすい街でした。一方で娯楽施設等が少ないため、週末の生活は大変苦勞しました。

5 県境のまち

北九州市も県境のまちであるが、海を挟んでいます。一方、大牟田市は陸続きであることから小さな河川が県境になることがあります。写真のように河川が被災した場合、発注者が別であるだけでなく、使用するブロックも異なります。そのため、片側だけ復旧が完了していたり、復旧後の見た目に違和感があったりします。



【大牟田市】



【熊本県玉名郡南関町】

6 さいごに

長期間の災害派遣は初めてでしたが、災害復旧事業の流れを一通り経験できたこと、また、他自治体での業務遂行方法を経験できたことは大変有意義でした。本市は派遣職員の高齢化が進んでいます。長い目を見たときに、被災時の初期対応方法や災害査定受検等の技術力向上を考えれば若手職員に絞った派遣でよいのではと思うところです。

最後に大牟田市職員の皆さまには、新型コロナウイルスのまん延で非常に大変な時期でありながら、平均年齢の高い職員を長きにわたり相手して頂いたことに心より感謝申し上げます、私の活動報告とさせていただきます。

大牟田市での災害復旧支援活動報告書

派遣先 大牟田市 都市整備部 災害復旧対策室
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 江上 誠治
活動期間 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日

1 大牟田市の概要

福岡県の最南端にある工業都市であり、農業が盛んな所です。人口は11.74万人、面積81.45km²であり、昔は三井三池炭鉱と三井財閥の工場で栄え、高度成長期（昭和40年代）は大気汚染等を経験した都市です。当時の人口は20万人を超えていました。当市出身の著名人は黒田東彦（日銀総裁）、原辰徳（巨人軍監督）など。

私の宿舎は、西鉄新栄町駅のすぐそばにあります。高度成長期は駅前に3つの百貨店があり駅前商店街も栄えていましたが、当時を知っている私からすると現在の商店街の様子は寂しい感じがしています。人口減と郊外に大型商業施設ができた影響のためという現在の地方都市における課題となっている姿ではないかと思います。

今まで、大きな災害がなかった大牟田市でしたが、令和2年7月豪雨により被災し、市の主要な道路は冠水し、河川は氾濫し、農地は水没し、がけ崩れが発生しました。

2 災害復旧事業の工事進捗について

令和2年7月豪雨における被災箇所については、国の災害査定を受け、農地・農業用施設、公共土木施設の復旧を進めています。

令和4年2月現在、農地・農業用施設災害復旧工事については全体の件数が88件、発注済が66件、工事完成が43件です。

また、公共土木施設については、全体件数が121件、発注済が105件、工事完成が67件です。

今後の工事予定は下記のとおりです。

○農地・農業用施設災害復旧工事

・農地 15件、農業用施設 30件

○公共土木施設災害復旧工事 54件

○その他、災害関連地域防災がけ崩れ対策工事12件の工事を進めています。

○令和3年度に発生した災害40件についても、順次工事を進めています。

令和4年度に大きな災害がなければ、災害復旧事業は完了に予定です。

現在



令和2年7月被災直後状況



四ヶ地区
公共土木施設
(河川)



手鎌地区
農業用施設
(井堰)



橘地区
農業用施設
(ため池)

3 現地での業務

災害復旧対策室は第1担当係（農地・農業用施設担当）と第二担当係（公共土木施設）があり、副室長、主幹、主査、担当者は第1係が6名、第2係が10名。コンサルタント3名で業務を行っています。（平成4年度は担当者が2名、コンサルタントが3名減となります。）

私の業務は農地・農業用施設の災害復旧工事の設計及び施工管理を担当しており、設計時の地元協議、福岡県筑後農林事務所への災害復旧事業承認申請、施工管理などを行っています。また、農業従事者などとの地元対応では、私も含め職員は対応に苦慮することもありました。

4 1年を振り返って

4月に赴任してきて、災害復旧対策事業は30年くらい前に経験していましたが、やり方も変わっており、初めてのようなものでした。最初は職場の仕事の進め方や職場の雰囲気馴染めないところがありましたが、何とか業務を遂行することができました。

正直、事業を早期に進めるためには、改善するところが多いと思います。

設計書作成（積算システム）や設計図面の修正（CAD）では、私のために自分の仕事を時間を割き、不満も言わずに付合ってくれた職員の皆様に感謝します。来年度も引き続き派遣職員として災害復旧事業にあたることになりましたが、1年間の経験を活かし、少しでも大牟田市に貢献できるように頑張りたいと思っています。